

佛教大学広報誌

B-ism

NO.30

B 佛教大学
ありがとうが あふれる世界を。

B-ism
NO.30

発行日
2025年(令和7年)12月15日

発行者
佐藤 和順

編集者
広報委員会

編集・発行
佛教大学広報課
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL 075-491-2141(代表)
www.bukkyo-u.ac.jp/

撮影場所 佛教大学 紫野キャンパス

2 新たな高みへと向かうスタートライン

10 輝きClose Up 活躍する学生たち

14 hot-TOPICS. 大学の動向

6 「授業参観・教員・研究紹介」
幼児教育学科編
教育学部 幼児教育学科
柏まり 教授

12 クラブ・サークル見聞録
—— 應援団
ジャズ倶楽部

21 BOOK Information

8 B.L.L. 研究報告
—— 歴史学部 歴史文化学科
八木透 教授

13 Favorite 「先生のお気に入り」
—— 文学部日本文学科 神原勇介 准教授
絵本「パンどろぼろ」シリーズ

22 B-Information みんなの掲示板

祝・プロ野球入団！ 女子日本代表初選出！

新たな高みへと向かうスタートライン 硬式野球部・赤木晴哉さん×本学広報課職員・藤原芽花さん

2025年夏から秋にかけて、佛教大学はアスリートの朗報に沸き立ちました。ひとつが、10月23日に開催された「2025年プロ野球ドラフト会議」で、硬式野球部の赤木晴哉さんが広島東洋カープから5位指名を受けたこと。もうひとつは7月末、本学学長室広報課職員の藤原芽花さんが、車いすバスケットボール女子日本代表（一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟）に初選出されたトピックです。

硬式野球部エースとして、パラアスリートとして、これまでも目覚ましい活躍をしながらも、発表当時の率直な感想は「スタートラインに立てる」。はからずも同じ言葉を口にし、ここから本番と見据えたおふたりに、いまの思いや今後についてお話をうかがいました。

Interview 1

熱気溢れるチームの勝利に尽力し
憧れられるプロ野球選手になりたい

佛教大学 仏教学部 仏教学科 4年生
赤木晴哉さん



恵まれた体格と巧みな投球術
プロ野球志望届は大学生一番乗り
ドラフト会議の指名発表の瞬間、学内の会場は大きな歓声と拍手に包まれた。硬式野球部のエース、赤木さんは、監督や部員、本学学生たちから祝福を受け、直後の会見では涙が光る場面も。5巡目で指名されるまでの時間は思いのほか長く、不安もよぎったという。「名前を呼ばれて正直

ホッとしました。やっとスタートラインに立てる」と心情を振り返る。
プロ野球志望届は大学生選手の先陣を切り提出。「初日に出しなかったけど、周りから縁起のいい大安にと勧められ2日に。ここだけでも一番で印象づけて（笑）」
191センチの長身から、最速153キロのストレートを投げ下ろす本格右腕。角度のある

直球が持ち味だが、本人の得意球は「フォーク」。ピンチ時の軸になり、多少の不調でもストライクを狙え、ボール球を挟んで空振りを取れる。「ある程度自在に操れて、安定して投げられる球」と自己分析。この1年で磨きをかけたスライダーやカーブなどの変化球も交えながら試合を組み立てる投球術が、広島スカウトの目に留まったのだらう。

赤木さんが野球を始めたのは、小4のとき「友人に誘われて」。キャッチャーや野手もひと通り経験したが、「目立つかったいいポジションがピッチャー」だった。当時から球速があり、小

なるレベルの高さと練習量の多さに驚く。腰を怪我して思うような投球ができない時期が続く、「つらいとか辞めたいとかはまったくなかったけど、仲間についていくのに必死でした」

佛教大学野球部のチーム方針がエースとしての成長と自覚の礎に

大学2年で投手として大きく花開く。最初の1年間は筋トレメインの体づくりに励んだ。練習やプレーが全力でできるようになったのは、怪我の完治だけでなく、「自分で練習メニューを考えて、自主性を尊重してくれる環境」があったから。赤木さんのやりたい野球スタイルに合致していたという。



佛教大学硬式野球部のカラーをひと言でいうと、「堅実」ですね。帰属意識が高くまとまりがあります。練習は個々の裁量に任せるが、チームで揃って結果





「2025
I W B F F
アジアオセア
ニアチャン

そして11月、タイ・バンコクで行われた「2025 I W B F F アジアオセアニアチャンピオンシップ」に出場した。連盟が定める日本代表選手選考条件をクリアした今年6月、次世代強化力テゴリーに選ばれ、「これでスタートラインに立てる！」。強化合宿後の7月末、日本代表選手として初選出された。

周囲は競技歴が長く、国際大会経験の多い選手ばかり。「私はいわば無名の若手。スキルも知識も足りない」と感じていたそう。それでも代表12人のひとりに選ばれたのは、「気持ち、でしうか（笑）。コーチたちからは、声をよく出すし表情がいいね」と評価されたのがうれしかった

理想は、パラスポーツがあたり前に浸透している社会

新監督のもと、ベテランと次世代が半々で構成された新生・日本代表チームに参加できたことは、好機であり収穫だという。「先輩選手と交代した若手が大暴れするシーンもあり、新鮮ないいムードでした」。選手層が厚く、世界選手権もパラリンピックもすべて選考会を経ての代表選出となるため、険しい道は続く。

大会や合宿の遠征、所属クラブの練習・試合など競技生活の一方、広報誌の制作やホームページの更新などの業務に携わる日々。勤務前、学生に交じって体育館やトレーニングルームで汗を流すことも。「上司や先輩方の理解とサポートのおかげで両立でき、大学で働く社会人経験はものすごくプラスになっている」と感謝の念を込める。「人として学べる場であり、競技人生を終えた後、どう生きるかにも関わってくるでしょう」

また、パラスポーツにとどまらず、パラスポーツの普及活動にも力を入れている。本学の車いすバスケットボール部は、藤原さんが発起人となり24年7月に設立。学内で体験会を開催したり、包括連携協定を締結している京都ハンナリーズのゲームでイベント参加するなど、指導者としても活動。障害の有無や性別に関係なく、誰もが楽しめるスポーツとして根付かせたいとの思いがある。「佛教大学におさまらず、高校の体育の

ジの更新などの業務に携わる日々。勤務前、学生に交じって体育館やトレーニングルームで汗を流すことも。「上司や先輩方の理解とサポートのおかげで両立でき、大学で働く社会人経験はものすごくプラスになっている」と感謝の念を込める。「人として学べる場であり、競技人生を終えた後、どう生きるかにも関わってくるでしょう」

また、パラスポーツにとどまらず、パラスポーツの普及活動にも力を入れている。本学の車いすバスケットボール部は、藤原さんが発起人となり24年7月に設立。学内で体験会を開催したり、包括連携協定を締結している京都ハンナリーズのゲームでイベント参加するなど、指導者としても活動。障害の有無や性別に関係なく、誰もが楽しめるスポーツとして根付かせたいとの思いがある。「佛教大学におさまらず、高校の体育の

授業にとり入れるなど、パラスポーツがごく自然に違和感なくその場に在るものになるとおもしろいな」

車いす生活も、車いすバスケットも、大学で働くことも、心から楽しんでる姿がまぶしい。「ポジティブだねと言われますが、前向きに生きようとか大げさなことではなく、目の前のことを楽しむ気持ちが強いだけです」

28年8月のロスで、8月8日の誕生日にちなんだ背番号「88」がコート内で躍動する。そんな光景が目に見え



「2025
I W B F F
アジアオセア
ニアチャン

を出そうというのが監督の方針でした。5季連続のリーグ制覇の立役者であり、最優秀選手賞の常連に。関西オールスターに招集されたチームメイトや対戦相手らプロを目指す選手に触発され、「2年後には自分も」と明確なプロ志向が芽生えた。

ドラフト指名後に行われた11月の大会も「フレッシュャーは感じず」投げ終え、「遅れをとりたくない」ので練習はしっかり続けています。野球以外で大学生活の思い出は、サウナによく通ったこと。「リフレッシュ法だし、ゆっくりしゃべれるんです」。練習後に部員と、また、関西オールスターで意気投合した藤原聡大投手（※1）も銭湯仲間。「キャンプ前に温泉に行こうと話しています」



※1花園大学のエース。同ドラフト会議で楽天から1位指名を受けた。 ※2天理高校の同期である達孝太投手。3年時、1位指名され日本ハムに入団。

取材後、広島出身のカメラマンに求められたサインは手慣れた様子。「高校のとき、サインの練習をする『たっさん』（※2）を真似て」と照れ笑い。名前の上には、「Car p」の文字が新しく加わっている。

目標は、女子日本代表としてロス・パラリンピック出場！

今年3月、教育学部臨床心理学科を卒業し、大学職員として働いている藤原さん。卒業後は大学院進学を検討していたが、「車いすバスケの活動を軸にする環境として、大学院での勉強は今はなくてもいいかもね」とゼミの教授からアドバイスを受けた。折しも大学職員の二次採用試験があると知り、急展開の

進路変更。「何らかの形で大学に恩返しをしたいと思っていたが、まさかここで働くことになるとは思っていませんでした」

藤原さんは大学2年の部活中の転倒から車いす生活に。それでも持ち前の旺盛な好奇心とバイタリティで、車いすハンドボールやパラアイスホッケーに取り組み。後者ではワールドチームの一員として、国際競技大会で銅メダル獲得に貢献。現在は「パラスポーツの中でも、アタマと

Interview 2

パラスポーツ活動も大学で働くことも
楽しもうという気持ちを大切に

佛教大学 学長室広報課 職員
藤原 芽花さん

今日の授業

誠実に子どもと向き合う

「乳児保育Ⅰ」は、まだ言葉の理解の進んでいない1、2歳児にどう伝え、どう理解してもらうかを学ぶ授業。前半の「模擬保育」の発表では、発表者は導入場面から一つ一つの言葉を選び、表情、手足の動き、目線の高さにまで注意を払う。学生たちの熱意が伝わってくる。

柏先生は、この授業を学生に保育学を「教授する場」だとは思っていない。教室は子どもを「保育する場」そのものだと考え、授業を展開する。「学生には、授業が始まる前に専門家の視点で、『この部屋に子どもたちを迎え入れるために、どんな準備をしておくべきか』をしっかりと考えておくことを求めている」という。



当然、参加する学生も毎回毎回が真剣勝負。「本当に、刺激的で楽しい授業。ただ聞いているだけの時間はまったくなく、楽しいけれどハードです」と語るのは、前田三寿々さん。先生から得られることはなんでも吸収しようと、前向きだ。「特に子どもを引き込む先生の話術がすごい。現場に立つ日までに、絶対身につけたいです」と意気込んでいた。逆に柏先生が学生から学ぶことも多い。「学生たちの期待を超えるような発想、行動に触れ、私自身も成長し続けています」

柏先生のモットーは「襟を正して子どもと向き合うこと」。大人が子どもたちに命令して、行動させることは容易だが、それは保育者としての責任放棄だと語る。「自分の思い通りに行動させようという一方的な気持ちで接してはいけない。いつ何時でも誠実に子どもと向き合うことが大切なのです」。言葉に力がこもった。

B-ism

2025
December



「みんな、明るい表情が良かったですー」と絶賛。「子どもは先生の楽しい顔を見て、『これは楽しいことなのだ』と理解するし、先生がちよっと悲しげに首を傾けたら、『これは、やってはいけないことなのだ』と学ぶ。だから保育の現場では表情が大切なのです」

後半は、柏先生が中心になって話を続けた。学生たちは机の上に置かれた新生児の人形を前に熱心

ている。

発表後、柏先生は

「みんな、明るい表

情が良かったですー

と絶賛。「子

どもは先生の楽しい

顔を見て、『これは

楽しいことなのだ

な』と理解するし、

先生がちよっと悲し

げに首を傾けたら、

『これは、やっては

いけないことなの

だ』と学ぶ。だから

保育の現場では表情

が大切なのです」

後半は、柏先生が

中心になって話を続

けた。学生たちは机

の上に置かれた新生

児の人形を前に熱心

に聴いている。「お隣同士の学生さんは、目の前にいる赤ちゃんのファミリーです。名前をつけてあげましょう」という先生の言葉を合図に一斉に相談を始め

るが、その間にも新生児のあれこれに関する柏先生の講義は続く。「新生児の平均身長は約50センチ、平均体重は約3000グラムです」

「赤ちゃんの視力は0・02、見える距離はおおよそ30センチ。しっかり目を合わせて微笑みかけようね。大人が話しかけることが、子どもの言語能力を育むのですよ。そう聞くと、学生は早速30センチの距離を意識し、人形に顔を近づけて話すようになった。

新生児の睡眠時間はおおよそ20時間。授乳の間隔は2、3時間おき。1日に8回から12回ミルクを飲むのだから、それだけでも育児は大変な仕事だ。そのことを踏まえて「子育てではお母さんの役目と考えるのではなく、パートナーや家族で一緒に乗り越えていってほしい」と柏先生。保育学の知識を超えて、子育てをめぐる幅広い話題が展開する。マザリース、ファザリースという専門用語の紹介も



明るく、楽しく、優しい笑顔で 子ども目線の保育をめざす！ 乳児の発達を理解し、子どもに伝える力を磨く

教育学部 幼児教育学科 教授

柏 まり

柏 まり(かしわ まり) 岡山県立大学大学院保健福祉学研究科博士後期課程修了。幼稚園及び保育所での経験を経て、中村学園大学人間発達学部助手、湊川短期大学幼児教育保育学科准教授、就実大学教育学部准教授、岡山県立大学保健福祉学部教授を経て、2021年から佛教大学教育学部教授。幼稚園・保育所・認定こども園におけるフィールドワークを中心に、幼児期における人間関係の研究、幼児期の規範意識、幼稚園教育課程及び保育計画の編成、保育内容の充実及び保育者の専門性・資質の向上に関する実践的アプローチ、男女共同参画社会実現のための子育て支援に関するプロジェクトについて研究している。

乳児（3歳未満児）の保育は、生まれて間もない子どもの生命に直接関わる大切な仕事。いわば「いのち」を守るための活動だ。「乳児保育Ⅰ」は、幼児教育学科で保育士を目指す学生が2年次に履修する必修科目で、1年次に学んだ保育原理や教師・保育者論の理論をベースに、翌年に経験する保育実習、さらに卒業後の保育の現場を意識した学びとなっている。

「みなさん、こんにちはー！」「こんにちはー！」。明るく、よく通る声で挨拶する柏まり先生に、教室いっぱい40人を超える学生が元気づく。この日の授業が始まった。柏先生は「朝早く子どものお弁当作ってから大学に来るのよー」とまずは自身の家族エピソードで場を和ませる。続いて「今日の内容、盛りだくさん。心の準備はできてる？」と軽くプレッシャーをかける。と、学生たちは気持ちを少し引き締める。

まず教室後方のマット空

間に全員が移動。あらかじめ指名されていた4人の学生がエプロンをつけて「模擬保育」を始めた。学生が自ら想定したシチュエーションで保育士を演じるのだ。

最初の学生は、保護者懇談会を想定し、日ごろ子どもたちと行っている手遊びを、ホワイトボードを使って保護者に紹介するという内容だ。保育の専門家が相手にするのは子どもだけではない。保育所での活動を丁寧に説明することで、保護者の方との繋がりも大切にしたという意識を表現した。次の学生は、保護者参観日に親子で体のさまざまな部分をくっつけ合う「ひつつきもつつき」遊びを指導。親や子に扮した学生たちは、手、足、おしりをくっつけ合い、どんどんボディアクションが大きくなる。みんな笑いが止まらない。

3人目の学生は「お庭で秋を見つけたよ」と笑いかけ、拾ってきたどんぐりを見せた。続けて手遊びをしながら童謡「どんぐりころ

あった。大人が子どもをあやす時に用いる言葉のこと。ちょっと高い声になったり、ゆっくり話したりなど、世界中の人々の間で使われているものです」

そうしている間に人形たちの名前が決まり、今度は、その名前をクラスの仲間にお披露目する時間となった。「あなたのお名前は？」と柏先生が簡単なメロディーのせて歌いかけると、学生たちは後について歌う。学生がベビーの名前を答えると、「あら素敵なお名前ね」とまた先生が歌う。こうして教室にいるベビー全員の名前が、みんなの歌で紹介される。「子育て支援の場で、こ



ころ」を歌う。最後の学生は「遠足の前日、持ち物確認をする」という状況を設定。明日の行き先である水族館にちなんで「魚」が出てくる歌をうたいながら、帽子、リュックなど持ち物を確認していく。「明日の遠足は楽しみだね」と上手にお話をまとめた。

4人の学生たちが保育士になりきって、大きな笑顔、優しい声で模擬保育を行なっている間、他の学生たちは子ども役や大人役を演じながら、楽しく手遊びに参加していた。しかし、その一方で、彼らも保育士の視点から「自分ならどう行動するか」を一生懸命考え

の歌を歌うことがありますが、『自分の名前を大きな声で応答するのには抵抗が』とおっしゃる方でも、自分の子どもの名前は『はい。〇ちゃんです！』と、とても元氣よく言ってくたさる。子どもは親の力を引き出すこともできるのです。最後に「保育士は保護者の養育力を育てるのも大切な仕事です。来週は赤ちゃんを連れて外へお散歩に行きましょう。来週もいい笑顔で来てくださーいね」と締めくくり、授業は終了。保育のプロとしての自覚と責任感を楽しみながら身につけるための工夫が、この90分間にたくさん詰まっていた。



八木 透(やぎ とおる)
1955年京都市生まれ。1978年同志社大学文学部卒業、1984年佛教大学大学院文学研究科博士後期課程修了。2000年から現職。世界鬼学会会長、京都市民俗学会会長、祇園祭綾傘鉦保存会理事などを歴任。毎年、祇園祭山鉦巡行および五山送り火にはテレビで実況解説を行っている。著書に『婚姻と家族の民俗的構造』(吉川弘文館)、『京のまつりと祈りーみやこの四季をめぐる民俗』(昭和堂)、『日本の民俗信仰を知るための30章』(淡交社)など。

教えるには恵まれたと顔をほころばせる八木先生のもとから500人以上のゼミ生が卒業している。博物館の学芸員や行政の民俗学技師、大学教授など、民俗学に関わる仕事に就いた人も多

こだわりを見つければ
その後の人生が豊かに
惜しまれつつ今年度で教授職を退任、来年度からは

客員教授となるが、民俗学の研究は今後もずっと変わらず続けていく。現在も『鶴の恩返し』や『蛇女房』など、人と動物が交わるさまざまな伝承を研究してまとめた『人と動物をめぐるフォークロア』の発刊準備に忙しい。『今まで知られてこなかった伝承の発掘、また視点を変えた新解釈など、今後も研究していけたらと思っています。研究が楽しいですよ。もちろん、そうでなければこんなに長く続けられません(笑)』

B-ism

2025
December

さまざまな作業に参加しその体験をレポートとしてまとめるというもの。その際に未だの祇園祭についての見解や提案も述べてもらうため、若者の貴重な意見は鉦町でも有益となっている。さらに社会人となっても継続して祭りに参加したいと京都の企業に就職したり、地方就職しても有給休暇を使って帰京する卒業生たちも。4年という在学期間のみの参加では技術継承が難しいといった懸念も杞憂に終わり、彼らは現在青年部として鉦町の若い力となつてくれているのだそう。

無限の世界が広がる 民俗学は人生そのもの



が大きかった」という学生の声だ。『まさに「百聞は一見に如かず」。祭りを支える立場から祭事に参加するということを実直に体感してくれていた学生が多く、本当に続けてきてよかったなと思います』

いそうだ。そして今年迎えた古希の記念にと教え子たちの手によって書籍が出版された。『彼らが執筆・編集してくれた、この『いまを生きる民俗学』という本のタイトルは、現代の民俗学を象徴していると思います。我々が生きている限り、なくなるしない学問であり、我々に一番身近な学問。長年私のそばにあり、私にとって民俗学は人生そのものです』

民俗学の面白さは、「この歳になっても新しい発見ができることだ」という。京都市内にもまだ見たことがない踊りや芸能が存在し、それぞれにまだ知らない伝承がある。日本全国に視野を広げれば、柳田國男さえ知らなかった世界がまだまだあるはずだ。民俗学には無限の世界が広がっていると思える。

民俗学の起こり。その創始者である柳田國男は、民俗学は現在学であり、人の暮らしや伝承を紐解き、日本人が日本人を顧みるところから始まった学問だと語っている。「今を知る」「未来を読む」のが目的の学問なのだ。

特に八木先生が研究を続けている『家族』について「今を知る」には、さまざまな世代から『ライフ・ヒストリー』を多く聞き取り、データ化する必要がある。さらに社会学や人類学といった民俗学の隣接分野と共同研究など協力することで「未来を読む」大きな結論を導き出せることもあった。「自分自身がこういった研究過程を経てこそ、ひとつの分野だけでは進まない分析に辿り着けることもあるのだという研究法の大きな発見にもなりました」

「百聞は一見に如かず」 実り多き「祇園祭研修」

代々、江戸時代から続く白生地問屋の血筋で京都生

研究のはじまりは 民俗学視点の家族研究

民俗学の師匠だった竹田聴洲先生について大学院から佛教大学へ進学。その後、助手、専任講師、助教授、そして教授と既に45年以上を本学と共に歩んできた。そのなかでも特に思い出深いのは、2010年に国内唯一の歴史学部を開設したときだという。「他にはな

いこの学部を目指して今でも全国から学生が多く来てくれる。民俗学を学びたいという声も多い。ありがたいことです」

八木先生自身が民俗学に興味を持ったきっかけは、『家族』。幼少期に家庭内での嫁姑問題を目の当たりにし、「なぜ家族の中でこんな争いが起きるんだろう」と考えた。高校時代の恩師から「その疑問の答えは民

俗学の中にあるかも？」と

アドバイスを受けたのがこの学問へ足を踏み入れた第一歩。それ以来、民俗学の視点で見る家族や夫婦の問題を追いかけてきた。高度経済成長や女性の社会進出、居住形態の変化などさまざまな時代背景からその謎に迫り、嫁姑の確執が表面化しなくなった今は、閉ざされた空間から生まれるDV(ドメスティック・バ

我々が生きている限り存在し、我々に一番身近な学問
無限の世界が広がる『いまを生きる民俗学』の面白さ

歴史学部 歴史文化学科 教授 八木 透



祇園祭や五山送り火といった全国的にも名を馳せる京都の四季を彩る祭礼行事。そのテレビ中継でのほんやりとした穏やかな口調の解説でもおなじみ、学外にもその名が知られている八木透先生。しかし専門の民俗学研究ともなると、「家族のあり方」の変遷を徹底的に掘り起こし、生粋の京都人でもある特性を生かして「地域の伝統芸能や伝承」を奥深く紐解いてゆく。八木先生の「いまを生きる民俗学」の研究は驚くほど広範囲を網羅する。



社会福祉学部 社会福祉学科 4年生
田中 陽菜さん

地域福祉に関わり見えてきた
あらゆる人に「居場所」を！

新たな学びと好奇心が尽きない社会福祉学科

3世代同居に、近所のお年寄りとの交流。田中陽菜さんにとって高齢者は、幼い頃から身近な存在だった。「祖父母とも暮らすことで、小学生のときに『福祉』という言葉を知り、高校に入る前から大学進学を考えていました」。佛教大学が社会福祉に力を入れているうえ、社会福祉士国家試験受験資格のためのサポート体制も整っていると知り、高校3年の時にオープンキャンパスに参加。先生や在学生の話に魅了され、志望校と見定めた。「課外活動についていきいきと話される先輩が素敵だなという印象に残りました」

いざ入学すると、想像以上に授業は楽しく、中学・高校と部活で続けてきたバレーボールのサークルに入り、充実した大学生活がスタートした。もうひとつ予想以上だったのは、社会福祉の分野が多岐にわたること。「あれもこれも学びたい」と知識欲の範囲はどんどん広がっていく。クラ イアント役とソーシャルワーカー役になり面接技法を学ぶグループワークでは、「相談者側の立場や考え方を思いやり、信頼関係を築くためにはどう接すればよいか。その後の実体験に役立ちました」

そんな日々を知識や実践力として深化させていったのが、「見守りホットライン」の活動と、障がい者就労施設でのアルバイトだ。同時に、高校生までは福祉の概念と直結していた高齢者だけでなく、障がい者、子



教育学部 臨床心理学科 4年生
辻 壮馬さん

全日本大学軟式野球国際親善大会の
日本代表選出に「ワクワク」

打撃の腕に覚えあり。休養期間を経て復活、2冠王に
「平均すると7割くらいかな」。まさか打率や勝率ではない。辻壮馬さんが、大学生活における野球に懸けた割合だ。「時期によっては全力120%です」と朗らかに笑う。

軟式野球部の主力選手として花開いたのは、3年生だった時の近畿学生軟式野球連盟春季リーグ。6番打者でスタメン入りし、ホームラン王と打点王の2冠、ベストナインにも選ばれた。「打点を稼げたのは、前のバッターが出塁してくれたおかげです」。続く全国大会では4番を任され、初回タイムリーを放ったが、残念ながらチームは初戦敗退。それでも「佛教大学の辻」の名は全国区に。守備は外野で、「どこでも守れます」。ライトが多かったのは「肩が強くて足も速いから」と豪胆だ。

自信と謙虚さが混在する辻さんだが、挫折も経験している。小学6年の終わりに少年野球チームに入り、中学で軟式野球部、高校は副キャプテンとして甲子園を目指した。大学も硬式野球部に入部したが、夏に肘を傷め、いったん野球から離れることに。5カ月間、アルバイトと遊びに明け暮れる。「でも、ふと振り返ると、目標がないと面白味に欠けるし、自分にはやはり野球でした」。同学部の友人に誘われ、中学以来の軟式野球を再開。1年生の冬だった。

久しぶりの軟式は技術面で慣れるまで少し時間がかかって、硬式で

ども、ひとり親、ホームレスなど、日常生活に不安や課題を抱えている人とふれあい、社会的な支援を必要としている地域福祉の現実を目の当たりにするきっかけにもなった。

「見守りホットライン」活動が未来への道標に

田中さんが所属する「見守りホットライン」は、学生が地域住民や社会福祉施設と協働しながら取り組んでいるプログラム、地域福祉フィールドワーク事業の1団体だ。活動の柱として、大徳寺近くで定期開催されている「子ども食堂まんぶく」に赴き、フードパントリーの支援活動を行っている。2年生の春、初回授業で配布されたチラシに興味を持ち、先輩の活動紹介を聞いて「やってみよう」から始まり、2024年度代表を務めるまでに。現在は15人ほどで運営。定期的に利用者に渡すプレゼントづくりを、学内イベントとして募集して開催している。「お菓子を詰めて、メッセージを添えて。季節や歳時に合わせて中身やラッピングを工夫しています」

生活環境も年齢もさまざまな利用者へ、地元の野菜やお米などの食材とは別に、お菓子の詰め合わせを手渡しする。リアルな反応が励みになるという。「毎回100人以上の人が参加され、過去最多を更新しているそうです」。利用者増がよい社会状況とは決して言えないが、気軽に立ち寄れる場所があるのはよいことだろう。そう、田中さんが学業や活動を通して切実に感じたのは、子ども食堂であれ、頼りたくなる人であれ、「居場所の大切さ」だ。

卒業後はアルバイトを続けた施設に就職予定。高齢者施設なども就活したが、「最終的にここだと。皆さん素直で純粋。私がいつも元気をもらっている。弾ける笑顔の中に、芯の強さがかがえる。社会人になると、もっと大きな驚きや喜び、また障壁も待ち受けているかもしれない。それでも、「初心を忘れず、誠実に向き合い、居場所づくりを追求していきます」



学内イベントとしてプレゼントづくりをしました

やってきた実力があれば大丈夫。前向きなつもりが、なかなか結果が伴わない。ジレンマに陥りながらも、約1年後の2年生の12月、「あ、感覚がつかめた」と覚醒した。

日本代表でも社会人でも、同じ気持ちで目標に向かう

「身につくまでとことん練習するタイプ」だと自負している。高校野球までは監督の指導を受けての練習が基本。一方、大学では学生主体で決めた個々の課題は自ら克服しなければいけない。「チームの一員としてのつながりを大事にして、心機一転頑張ろう」。打撃の巧い仲間にもアドバイスを聞き、必要な筋力をつけ、試行錯誤を重ねるうちに、自信やスキル、連帯意識を取り戻したという。心身の変化は春季リーグでの個人タイトルにもつながった。

そして、2025年12月に台湾で開催される全日本大学軟式野球国際親善大会の日本代表選手に選出される。部在籍中に全国大会で一度も勝利できなかったもどかしさから、生来の負けん気を発揮。「大学最後に、自分単位で挑戦してみよう」と、選考会を経て獲得した代表メンバー入りだ。国際大会、日本代表、海外渡航と初めてづくし。現在（10月中旬取材時）の心境は？と問えば、「どんな試合であれ、準備することも気持ちも変わりはありません」と気負いがけない。「絶対出場して打ちたい」とワクワクしています

卒業後の進路は、不動産会社の営業職に内定している。いつとき「中学の野球部顧問」という夢を思い描いたが、大きな商材を扱うスケール感と、そこで求められる人間力に引きつけられてギアチェンジ。猛勉強



をして宅地建物取引士資格試験も合格した。「熱い先輩が多い会社なんです。野球と同じく、『目標に向かってやる』は私の中で地続きになっています」。上司や先輩の愛されキャラになりそうではないか。まずは12月、台湾での活躍に注目だ。



神原 勇介(かんばら ゆうすけ)
1990年、神奈川県生まれ。博士(文学)。國學院大學大学院文学研究科文学専攻博士後課程修了、國學院大學教育開発推進機構の兼任講師、東京経営短期大学の非常勤講師を経て、現職。研究分野は、『源氏物語』の形成と主題、平安朝文学と家族構造の連関。主な著書に、『「源氏物語」明石一族物語論:形成と主題』(新典社研究叢書、2022年)など。

先生のお気に入り 「パンどろぼう」シリーズ

第二十八回
文学部 日本文学科 准教授
神原 勇介 先生の巻



物語も表情も愛くるしい
ものづくりの情熱と悦びが
研究者視線と響き合う

『パンどろぼう』との出会いは、京都に引っ越してきた2023年。保育園に通う長男が先にこの絵本を知っていて、休日の公園でぬいぐるみを抱えたお子さんに向かって「パンどろぼうだー」と駆け寄ったんです。同世代の親子との交流が生まれ、スムーズな公園デビューを果たしました。

シンプルに物語として面白い。おいしいパンを探し求めて泥棒を働く主人公が、改心して、精進して、パン職人になる――。ものづくりを通して成長していく様子がなかなか感動的です。論文に取り組む研究者として、道のりの苦業や世に出す悦びに共鳴しました。大工の祖父作の家具に囲まれて暮らしていたり、名匠を描いた小説が好きだったり、昔から職人気質や技に惹かれるんです。

パンどろぼうの「まずい!」という表情が秀逸で、見事に再現されたぬいぐるみは東京駅限定アイテム。出張時に購入しましたが、我ながらグッズ収集するまで夢中になるとは(笑)。研究室に数点ずっと飾っていると、「私も好きです」と見つける学生もいて、幅広い世代に親しまれている絵本だと実感

しています。

シリーズの中で最も好きなのは、第4弾の『おにぎりぼうやのたびだち』。パンどろぼうがおにぎりぼうやや時代のエピソードゼロです。お気に入りキャラクターは人気投票に投じた、おにぎり一家の主。少し不器用だけどどっしり落ち着いた頑固親父で、自分の決めた道へと旅立つおにぎりぼうやを、泣きながら、でも涙を見せず送り出す姿が切なくて。息子は反発していたわりに父親のDNAを受け継いで、おにぎりからパンに替わっても被り物を継続しているのも可笑しい。パン職人として身を立てた今も、年に一度くらいは帰省してほしいなあ。

9月発行の第7弾は新たなフェーズに入ったように感じるし、アニメ化もされることで、今後もパンどろぼうの動向に目が離せません。ちなみに私は、食べるのはパンより断然お米派。料理好きで、土鍋ごはんを炊きます。



Hello!!

クラブ・サークル見聞録

彼は

「やさしい監督」「楽しいメンバー」「こだわりの活動内容や伝統」など、
佛教大学のクラブ、サークルといった課外活動団体の彼は(あれこれ)を
部員が自ら紹介、語ってくれます。

応援団

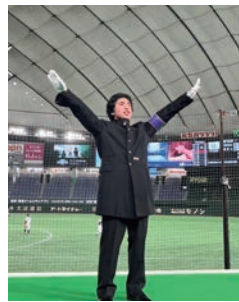


吹奏楽部&チアリーダー部と団結
届け! 気合いのエール

鬼塚 諒太さん
河野 通弥さん

「鬼塚」応援団は、吹奏楽部とチアリーダー部とともに応援団本部に所属しています。日頃はそれぞれで活動していますが、硬式野球部やアメリカンフットボール部などの応援活動の際は3団体が一致団結。応援の先頭に立ち、声援やパフォーマンスで選手にエールを送っています。

現在、団員は4人の少数精鋭部隊です。私と他2人は吹奏楽部にも所属し、3人ともクラリネット奏者でもあります。小・中学と野球をやっていたので、得点時は一層熱が入ります。普段は穏やかな性格だからか、友人には大声での応援とのギャップに



活動日: 週1回
活動場所: 鹿浜館など



ジャズ倶楽部



ほどよい抜け感で奏でる
自由なジャズの調べ

三苫 陽生さん

部員約50人のうち、半数は音楽・楽器初心者です。大体5〜6人でバンドを組み、ドラム担当の私を含め、複数バンドを掛け持ちしている人もいます。ジャズは難しいイメージがあるかもしれませんが、せんが、楽譜重視の吹奏楽と異なり、アドリブメインで音づくりを愉しみ、いい感じで力が抜けているところが魅力でしょう。

各バンドは、『ジャズ・スタンダード・バイブル』の王道ナンバーを選び、好きな曲を耳コピーしてアレンジを加えて自主練習に励んでいます。月1回の定期ミーティングで



2025年に創部30周年を迎え、5年ごとに開催するOBOG会には50人近くの先輩方が駆けつけてくださいました。さらに5年、10年と、ジャズ倶楽部ならではのジャズの調べを引き継いでいきたいです。



第16回ホームカミングデーを開催

2



11月2日に同窓生の交流イベント、第16回佛教大学ホームカミングデーを開催しました。

昨年度から始まった「同窓ツアー」。今回は、佐々木酒造酒蔵見学ツアー、京都の伝統文化・手描友禅染「挿友禅」の体験、清涼寺参拝ツアーを実施しました。母校に足を運び、さまざまな京都を楽しんでいただきました。



第59回鷹陵祭(おうりょうさい)

1

『今、この瞬間を魅了する～鷹のまなざし、世界を見つめて～』

11月2日～4日、紫野キャンパスで第59回鷹陵祭が開催されました。「来場される皆さんに夢中になって楽しんでほしい」という思いを込めた今年のテーマのもと、キャンパス全体がにぎわいに包まれました。



多彩なゲストコンサートに加え、実行委員会による「鷹陵祭スタンプリング」や「フォトスポット装飾」など、参加型の企画が多数行われ、来場者の笑顔があふれました。ステージでは、全11団体がジャンルの垣根を越えたパフォーマンスを披露し、大きな拍手が送られました。

また、環境問題への取り組みや、プロバスケットボールチーム「京都ハンナリーズ」との連携企画も行われ、地域と大学をつなぐ交流の場としての一面もみられました。

飲食模擬店では、留学生による



ふるさとの味が楽しめる「こくさいキッチン」をはじめ、学内外あわせて27店舗が出店。香り立つグルメの数々が、参加者のおなかも心も満たしてくれました。夜には、恒例のイルミネーション企画「電光石華」がキャンパスを彩りました。和傘や灯笼、提灯、アーチ、プロジェクトンマッピングによる幻想的な光景が広がり、昼とは違った表情の学園祭を楽しむことができました。



準備から当日運営まで、学生たちは互いに支え合いながら学園祭をつくり上げてきました。その姿はたくましく、頼もしいものでした。鷹陵祭に参加された皆さんにとっても、「今、この瞬間」が心に残るひとときになっていれば幸いです。



第22回佛教大学学術賞・佛教大学学術奨励賞授与

3

学術賞

■ 人文科学部門

曾 睿 (文学部 契約講師)

著書名：『字音形態素から見る語構成と節構成の研究』(佛教大学研究叢書、ミネルヴァ書房、令和6年3月)

■ 自然科学部門

伊佐次 優一 (保健医療技術学部 助教)

論文名：Effectiveness of psychological intervention following anterior cruciate ligament reconstruction : A systematic review and meta-analysis
Physical Therapy in Sport 69, 2024/7

学術奨励賞

■ 文学研究科

大黒 久美子 (大学院文学研究科歴史学専攻 博士後期課程3年生)

論文名：「高知県西部の養子婚をめぐる一考察 ―宿毛市山奈町芳奈の事例より―」

(『京都民俗』第43号、京都民俗学会、令和6年11月)



【社会連携】起業家リアルトーク開催 一等身大の言葉が背中を押す4日間

5



10月9日から11日まで、全4回の「起業家リアルトーク」を開催しました。

一般社団法人京都知恵産業創造の森の協力のもと、在学生をはじめとした起業家が、失敗も成功も包み隠さずシェア。会場には「自分は何がしたいんだろう?」「難しいと感じていたけど、やっぱり起業したいかも」という気持ちがふくらむ空気が流れました。

登壇者からは「やりたいことを知ることが第一歩」「やってみたい」が芽生えたら、まずは動いてみよう」「なりたいたい自分を言葉にしてみると景色が変わる」と、あたたかなメッセージが。参加した1年生は「ビジネスアイデアを形にするヒントをもらった。いろんな人に出会って磨いていきたい」と目を輝かせ、就活を控える学生からも「起業予定はないけれど、まずは行動してみようと思えた」と前向きな声が寄せられました。

「起業する・しない」に関わらず、未来の選択肢が少し広がる時間となりました。



B-ism

2025
December

【社会連携】佛教大学×丹後緑風高校 「海ごみアップサイクル」体験

4



本学は、京都府立丹後緑風高等学校網野学舎「総合的な探究の時間」自然環境チーム（1・2年生約10人）と連携し、海洋ごみ問題に向き合う実践型プログラムに取り組んでいます。

10月5日、京丹後市・八丁浜で両校合同のビーチクリーンを実施。ワークショップに用いる素材を回収するとともに、現場で課題の深刻さを確認しました。回収後はプラスチックごみの洗浄・粉砕やシーグラスの選別などの下処理を行い、教材化。

その成果として、11月2日に開催した本学「第59回鷹陵祭」と、11月8日開催の京都府立丹後緑風高校「緑風祭」にて、ハーバリウムやアクセサリーづくりのアップサイクル・ワークショップを共同出展しました。本学会場では約100人が参加し、急ぎよ整理券



を配布するほどの盛況に。学生と高校生たちは「未来の子どもたちが裸足で歩ける浜辺にしたい」と来場された地域の方に語りかけ、学生・高校生にとって学びを社会へつなぐ貴重な機会となりました。緑風祭でも子どもたちを中心に多くの人が体験し、高校生チームはこれまでの探究活動の成果を存分に発揮しました。

ご協力いただいた京都府立丹後緑風高校の皆さま、両学園祭でブースにお立ち寄りくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。今後も本学は、地域と連携した「気づきから行動へ」の学びを広げてまいります。



附属こども園 創立50周年記念式典を開催しました

8



10月28日、附属こども園の創立50周年をお祝いする記念式典を行いました。本園は、1976（昭和51）年に附属幼稚園として開園して以来、多くの子どもたちの成長を見守ってきました。2023（令和5）年度には、幼児連携型認定こども園へと移行し、節目の年である50周年を迎えました。

当日は、法人理事長をはじめ、歴代園長先生や関係者の皆様など、多くのご来賓にご出席いただき、3・4・5歳児と教職員一同がそろって、あたたかな雰囲気なかで式典が執り行われました。

式典後には、元保育士の男性二人組あそびうたデュオ「ロケットくれよん」をお招きし、コンサートを開催しました。本学幼児教育学科の学生たちもかけつけてくれ、園児たちは歌に合わせて体を大きく動かしながら、笑顔いっぱいいで歌って踊



る、にぎやかで楽しいひとときとなりました。

50周年という大きな節目を迎えた本園は、これからも一人ひとりの子どもの生きる力を育む、より充実した幼児教育・保育をめざし、教職員が力を合わせて歩みを進めてまいります。次の節目となる100周年に向けて、地域とともに、子どもたちの育ちをあたかく支えていきます。

B-ism

2025
December

佛大喫茶を開催 二条キャンパスで地域の方と交流

6

7月6日、二条キャンパスにて、地域の高齢者を対象とした交流イベント「佛大喫茶」を開催しました。

この催しは、2025年度「学生企画まちづくり支援制度」に採択された団体「Nijot（ニジョット）」のメンバーである作業療法学科の学生が中心となって企画・運営したものです。

当日は、50代から80代までの地域住民31名が参加。金魚鉢をモチーフにした飾りづくりを楽しみながら、学生と参加者が和やかに交流のひとときを過ごしました。

アンケートでは「佛大生が優しくサポートしてくれて楽しい一日になりました」「以前からキャンパスに入ってみたくて思ったので嬉しかったです」といった声が多く寄せられ、地域に開かれたキャンパスとしての温かい交流の場となりました。



会話を楽しみながら工作する地域の皆さん



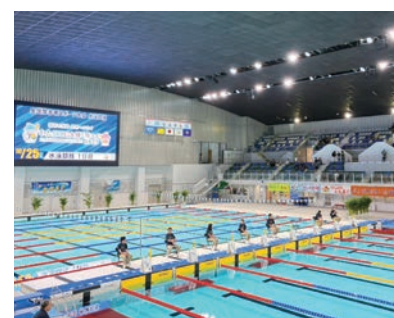
手作り作品のできあがり！



イベント後、いい笑顔を見せる作業療法学科生たち

「わた SHIGA 輝く障スポ2025」に 選手団サポーターとして参加

7



10月25日～27日に開催された「わた SHIGA 輝く障スポ2025」競泳競技に、公認中級バラスポーツ指導員資格の取得を目指す保健医療技術学部理学療法学科・作業療法学科の学生66名が、選手団サポーターとして参加しました。

会場では、さまざまな障害を持ったパラアスリートや役員の方々の案内・介助・誘導などを担当し、競技がスムーズに進行するようサポート。笑顔で声をかけたり、誘導を行ったりと、一人ひとりが役割を意識しながら大会運営に協力しました。

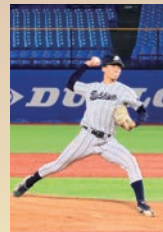
障害という困難に向き合いながらも、力強くスタート台に立つ選手の姿に、学生たち

は大きな感動を受けました。「選手の皆さんがベストな状態で競技に臨めるよう、これからもボランティアという形で支えていきたいです」と、参加した学生は今後の抱負を語ってくれました。

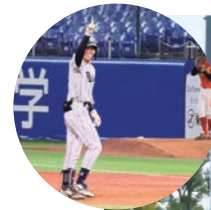
また、大会には多くの理学療法士が参加しており、実際に活躍している先輩方のサポートの様子や、選手との接し方を間近で見ることができ、「将来、自分もこんなふうになりたくて、具体的な将来像を思い描くきっかけにもなったようです。今回の参加は、学生たちにとって、自身の学びとキャリアを深める貴重な経験となりました。



強化指定スポーツ 9
硬式野球部が関西地区第一代表として明治神宮野球大会に臨みました!



6回無失点・5奪三振の快投で流れを引き寄せました。4回裏、鳴坂選手の安打と盗塁から岩本選手が先制打を放つ



硬式野球部が、第23回大阪市長杯争奪



と、6回には塩川選手の出塁を起点に、小池選手の適時打、前田選手の3点適時三塁打、牧戸選手の三塁打と打線がつながり、8対0の7回コールド勝ちを収めました。

続く青山学院大学戦では、好機をつくりながら得点に結びつけられず、先発・野村選手が5回2失点と粘投。救援陣も無失点でつなぎ、9回には薬師選手の安打と4番・鳴坂選手の適時打で1点差に迫ると一歩及ばず1対2で惜

スタンドから選手を支えた應援團本部（應援團・チャリダー部・吹奏楽部）は、神宮の冷え込む夜空の下でも声と演舞、音楽を途切れさせることなく、「チーム佛教大学」の一体感をつくり出しました。

硬式野球部は、悔しさと手応えを胸に、すでに来季の京滋大学野球連盟春季リーグ戦に向けて新たな挑戦を始めています。



タイトル

著者

出版社

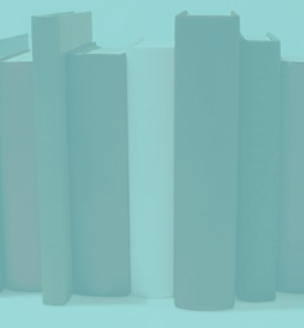
出版日

価格

BOOK
Information

本

本学の教員による
刊行物をご紹介します。



Cross-link basic
 リハビリテーションテキスト
 解剖学

共編著／小澤一史(保健医療技術学部 教授)
 Medical View
 2025年2月
 定価(税込) 6,380円

批判的犯罪学…刑事司法と犯罪研究を問い直す

MOORE'S
臨床のための解剖学「第3版」

分担執筆／小澤一史(保健医療技術学部 教授)
MEDSI
2024年3月
定価(税込) 15,950円

親の精神疾患とともに
生きる子ども達の
レジリエンスを高めるために



監修／野田中恭子（保健医療技術学部
准教授）

かもがわ出版
2024年5月
定価(税込)2,640円

訪問看護 困難事例
対話からわかる
アセスメントと対応のポイント

解決ガイド

対話からわかる
アセスメントと対応のポイント

解決ガイド

分担執筆／濱吉美穂（保健医療技術学部 教授）
中央法規出版
2025年9月
定価（税込）2,640円

生理学用語ハンドブック



分担執筆／小澤一史(保健医療技術学部 教授)

丸善出版

2024年3月

定価(税込)6,050円

LGBTQ+

性の多様性はなぜ生まれる？
生物学・医学的アプローチ

共著／小澤一史(保健医療技術学部 教授)
恒星社厚生閣
2024年5月
定価(税込)2,420円

子どもの語りからわかる
精神疾患のある親をもつ
子どもの支援



著／田中哲也 (保健医療技術学部 准教授)
中央法規出版
2025年6月
定価(税込)2,750円



強化指定スポーツ 陸上競技部女子中長距離部門 富士山女子駅伝に向けて



陸上競技部女子中長距離部門は、9月に行われた関西学生対校女子駅伝大会（9月27日・神戸しあわせの村）において総合5位となり、全日本女子駅伝大会の出場権を獲得することができました。

現在は、12月に開催される全日本大学女子選抜駅伝（富士山駅伝）に向けて、「富士山駅伝には必ず出場する！」という強い気持ちで、出場権獲得を目指して、チーム一丸となり練習に取り組んでいます。

応援は選手にとって励みになり、かけがえない力ともなります。引き続き、皆様からの熱いご声援をよろしくお願いします。



入試に関するお知らせ 2026年度入学試験日程		
一般選抜（A日程）〈2科目型〉		
試験日	出願期間	試験会場
1月31日（土）・2月1日（日）	WEB出願 1月6日（火）～1月20日（火）	京都（本学）・東京・金沢・浜松・名古屋・米原・福知山・大阪・神戸・和歌山・米子・広島・高松・福岡
一般選抜（B日程）〈3科目型〉		
試験日	出願期間	試験会場
2月2日（月）・3日（火）	WEB出願 1月6日（火）～1月20日（火）	京都（本学）・東京・金沢・浜松・名古屋・米原・福知山・大阪・神戸・和歌山・米子・広島・高松・福岡
一般選抜（C日程）〈2科目型〉		
試験日	出願期間	試験会場
3月5日（木）	WEB出願 2月10日（火）～2月24日（火）	京都（本学）・名古屋・大阪・岡山
大学入学共通テスト利用選抜		
試験日	出願期間	試験会場
前期 ◎大学入学共通テスト 1月17日（土）・18日（日）	WEB出願 1月6日（火）～1月29日（木）	※個別学力検査は実施しません
後期 1月17日（土）・18日（日）	WEB出願 2月10日（火）～2月27日（金）	※個別学力検査は実施しません

※大学院、編入学、社会人1年次等の入試について、詳しくは本学ホームページ「入試情報サイト」をご確認ください。
※佛教大学入試情報サイトでは、入試やオープンキャンパスなどの最新情報をお届けしています。



お問い合わせ：入学部

研究活動

「研究活動報manako」をご存じですか？



本学ホームページにて「研究活動報 manako」と題して、本学教員の研究活動を発信しています。是非ご覧ください。



オープンラーニングセンター（O.L.C.）

公開講座受講生募集中!半期12,000円で300以上の講座が受講し放題!

オープンラーニングセンター（O.L.C.）は、対面とオンラインを融合させた新たな講義スタイルで、幅広いラインナップの講座を年間約600講座開講しています。また、いずれの受講形態にも1か月間の「見逃し配信」が付き、ライフスタイルに合わせた受講が可能です。O.L.C.で、あなたの「学び」の扉を開きませんか。



お問い合わせ先：オープンラーニングセンター



通信教育に関するお知らせ 2026年度前期 通信教育課程 入学説明会

私立大学通信教育協会主催 合同入学説明会 ※個別相談をお受けします

開催日	開催時間	開催地	開催会場
1月31日（土）	11:00～16:00	札幌	アスティホール4階
2月 1日（日）	11:00～16:00	東京	新宿エルタワー30階 サンスカイルーム
2月 7日（土）	11:00～16:00	大阪	梅田サウスホール 大阪梅田ツイン タワーズ・サウス11階
2月 8日（日）	11:00～16:00	大阪	梅田サウスホール 大阪梅田ツイン タワーズ・サウス11階

オンライン個別相談会

日程調整中。

●詳しい日時はホームページをご確認ください。Zoomを使用した個別相談をお受けします。



お問い合わせ：生涯学習部

宗教文化ミュージアム



浄土宗の歴史・思想・美術などをテーマとする展示や、当館が所在する嵯峨野地域の歴史や文化の魅力をひろく紹介しています。民俗芸能などの公演を行うシアターを併設しているのも特徴です。

開館時間 10:00～17:30（※入館は17:00まで）
入館料 無料 **休館日** 土曜・日曜・祝日・年末年始

お問い合わせ先 宗教文化ミュージアム
〒616-8306 京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26
TEL:075(873)3115 museum@bukkyo-u.ac.jp



開館予定やイベント情報は、ホームページ内の「開館スケジュール・イベント」を随時更新しています。

日程	内容
2026年 1月24日（土）予定	第50回シアター講演 ※詳細はホームページをご覧ください。

※最新の情報は当ミュージアムのホームページ（<https://www.bukkyo-u.ac.jp/museum/>）をご覧ください。

令和8年度入学宣誓式

Date
4 / 1 (wed.)

前期学位記、卒業・修了証書授与式（通信教育課程）

Date
3 / 25 (wed.)

学位記、卒業・修了証書授与式

Date
3 / 18 (wed.)

一般選抜（C日程）

Date
3 / 5 (thu.)

一般選抜（B日程）

Date
2 / 2 (mon.)
3 (tue.)

一般選抜（A日程）

Date
1 / 31 (sat.)
2 / 1 (sun.)

大学入学共通テスト

Date
1 / 17 (sat.)
18 (sun.)

始講式・秋学期授業再開

Date
1 / 5 (mon.)

B-information

みんなの掲示板

2026年 主な行事予定

佛教大学 公式SNS



公式 Facebook
アカウント名: bukkyo.univ



<https://www.facebook.com/bukkyo.univ>



公式 Instagram
アカウント名: bukkyouniversity



<https://www.instagram.com/bukkyouniversity/>



公式 X
アカウント名: @bukkyo_univ



https://x.com/bukkyo_univ



「B-ism」のバックナンバーが見られます

当誌「B-ism」は、佛教大学広報課が発行する広報誌です。

佛教大学の「人・教育・研究」などをより多くの方々に知っていただく目的で、佛教大学の魅力を伝えるべくさまざまな企画をお届けしています。

これまでに発行された「B-ism」は本学ホームページからも閲覧できます。

《アドレス》<http://www.bukkyo-u.ac.jp/about/publicity/>

トップページ ➡ 大学紹介 ➡ 大学広報



読者アンケートのお願い

B-ismに関するアンケートにご協力いただいた方の中から、抽選で佛大オリジナルグッズをプレゼントいたします。

以下の二次元コードよりご応募ください。



※応募締切：2026年2月20日
※当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。



3名

(1) ロゴマークタオルハンカチ



3名

(2) 「ぶったん」スクイーズ



各2名

(3) 佛教大学
オリジナル御朱印帳
(紫色/ラベンダー色/桃色)